○

忍耐力のないことが、日本人の弱點のやうにいふ者がある。しかし私は或る一點に於て日本人に世界無比の忍耐力を認める。その一點といふのは、日本人が住宅に就て非常に辛抱强い或るものを持つてゐるといふことなのだ。

○

日本の住宅は全く南洋的氣候に合ふやうに拵へた、夏向の家である。斷じて冬向の家ではない。細々しい例は後に擧げるが、昨今の寒さが骨身に堪えない者があらうか。室内の温度は殆んど室外のそれと變りはない。一つや二つの火鉢で幾何の温度を保たせることが出來るか。まるで吹きさらしの家ではないか。

○

堂々たる總檜の結構な大邸宅には、未だ住んだ經驗はないが、吾々借家住ひ、下宿住ひ乃至宿屋住ひの經驗のある者に取つて、日本住宅が寒氣に對して全く無防備の狀態にあることを誰が否定し

得よう。

○

負惜み屋はいふ、日本住宅は換氣がよいと、そも〳〵換氣といふのは、外氣の侵入を防ぎ得る建築にして始めて言ふことで、初めから吹きさらしの家に換氣の必要がないのは、乞食の住居に採光の必要が無いのと同じだ。建築衞生の上から重要視される換氣とか、採光とかいふことは、人間が人間らしい家を作つて、天然との交渉を或る程度まで打切るところから來る弊害を救ふ爲の手段である。だから文明が進み、建築法が進めば進むほど、これ等の點に注意を拂ふ必要があるので、野蠻人の生活に建築學上いふ所の採光や換氣の必要はあり得ないのだ。

○

少しばかりでも西洋風の生活に馴染んだものは、日本住宅の寒さを卿ち金を焚くやうな高い炭を惜氣もなく火鉢にくべるのは大抵洋行歸りの連中だ。丸の內邊の立派な建築で事務を執る人々は、家にゐるより會社の方が樂だといふ。尤もなことだ。スチームヒーターで六十度以上に溫められた事務室から、四十度位の日本家屋に歸つて來ては、つく〴〵と日本家屋の悲哀を感じない譯には行かない。そして事務所と住宅との建築の相違から起るこれ等の矛盾は時と共に增大して、年々寒が

り驚が殖えて行く。

○

年寄はこれを見て、今の若い者は意氣地がないといふ。俺の若い時はといつて、寒中素足でゐたり袷一枚で押し通した自慢をする、昔の人はそれでよかつたのだらう。今の人はそれではいけない。身體の訓練と事務の能率とを混同しては困る。身體をきたへる爲なら、昔の人の知らなかつた、新しい運動法が澤山ある。事務の能率を上げる爲には、室內は夏冷しく冬溫かくなければならない。米國西沿岸の人達は夏でも冬でも大した變りのない下着を着てゐる。洋服もさうである。外套のあるとなしの相違が夏と冬との區別位なものだ。勿論それは日本とは氣候も違ふが、日本と同じやうな氣候のところでもそれで間に合ふのだ。

○

住宅を住心地のよいやうにすることは所謂文化生活への第一歩だ。不愉快、非衞生、不經濟なること今のごとき住宅を、何等の改良をも加へることなしに、燒ければ建て、建てゝは燒きいつまでも同じことを繰返してゐる。建てる人も住む人も、忍耐力の強い點で世界無比だとはそれをいふのだ。

○

總檜造りの宏大な邸宅と、長屋のやうな貸家とでは、建築費からして比べものにならない。しかしそれはたゞ材料の相違だけで、構造法に精粗の別はあつても本質的に違ふ譯ではない。日本家屋はどこまでも日本家屋である。例を自分の借家に取る。その壁と柱乃至小窓の敷居、鴨居のつぎ目には、壁と木との兩方の乾燥によつて、必ず多少のすき間がある。ひどいのになると一分以上もすいてゐる。外側には羽目板が打つてあるのだが、それでも暗がりで外を透かして見ると驚くほど透だらけだ。この間を通して、所謂透間風が容赦なく吹き込む。床板はひどい所になると一二寸も透きがある。波のやうな疊と疊のすき間から寒い風が、スウ〳〵と來る。雨戸はどれも、これもすき間だらけで、おまけに建つけが合はない。緣側の板の合せ目からも寒風は見舞つて吳れる。ところ〴〵の柱の土臺が落ちこんでゐるので、障子、唐紙は建つけが合はず、よせ木を入れても直にまた狂つて了ふ。出來合物だけに障子、唐紙の合せ目は二三分から五分位はすいてゐる。

○

押入をあけると、身を切るやうな風が襲つて來る。その板の間や天井が、すきだらけだからだ。火鉢や炬燵をかゝへて見ても、前後左右から寒い風が絶間なくやつて來る。殊に押入の襖のすき間

から來る奴は刄のやうに鋭くあたる。最もひどいのは臺所だ。流しのそばにある勝手口は雨戸を閉め切つても上の方が掛値なしに二寸位口をあいてゐる。板の間の上に立つてゐると、格子の上にゐるやうに寒い。それから天井と來ては、板がうねりを打つて、すき間だらけ、鼠の糞が時々落ちて來る。

○

それも我慢するとして、折角高い炭をドシドシ焚いても、温氣は天井板の透間から天井裏へ拔けて了ふ。冬になると急に天井に鼠が殖えるも道理や、彼等は吾輩の生活難の餘慶を受けて天井裏へ避寒に來る。こちらは寒くてふるへてゐるのに、彼等はぬく〳〵と温まつて、男女交際の舞踊會をやる。乾燥し切つた天井のほこりが、暖氣の爲に餘計に口をあいた板の間から、時としては眼にも見えるほど落ちて來る。その度に二三の糞が豆粒のやうな音を立てゝ疊の上に落ちる。これが非衛生でなく、不愉快でなく、不經濟でなくて何であらう。

○

危なくてストーヴは焚けない。假に据付け得られるとしても、障子はゆがみ、疊は赤くなり未乾燥の木材で造つた凡ての家具は音を立てゝひゞ割れること、ストーヴの中の火を睹るよりも明かだ。

どうして部屋を温めよう。これが目前の大問題だ。自分の經驗によれば八疊一室を締切つて、直徑一尺八寸の丸火鉢に炭火をドン〳〵焚いても、六十度まで温度を上げるのは非常な困難だ、一寸火が少なくなれば直に五十度以下に下つて了ふ。たゞ温度を上げるだけなら炭を後から後からつげばいゝ、けれども、經濟も考へねばならぬ。衞生も考へねばならぬ。温度ばかり保つても家の經濟が保たず。家人の健康が保てなければ大問題だ。

○

斯ういふと、如何にも無慘な荒ら屋に住んでゐるやうに思はれやうが、實際のところ貸家としては、下等の部ではない、たゞ古いだけで無論上等とは行かないまでも下等といふ譯ではない。程度の差こそあれ借家といふものは似たり寄たりのものではなからうかと自分は思ふ。馬鹿をいふな、そんなケチな借家に住んではゐないぞと怒鳴られゝば自分は大人しく、この點を取消しもしよう。

○

つとめ人は大抵洋服になり、事務所は悉く洋館となり、食事にもパンの宣傳が行はれてゐるにも拘らず、住宅のみが昔と變らないのはどうしたものだ。たゞ少し變つたのは硝子を用ひる位のものではないか。合理的生活とは、世界共通の基礎の上に築かれた生活をいふ。凡てが世界的となつた

今日、日本住宅も亦世界の基準の上に立つものを建築したい。たゞ西洋の眞似をしろといふのではない。（一〇・一・五）

生活改善

◇

生活の改善はお菜の改善のやうに一朝一夕に出來るものではない。出來ないといつて放つて置けば、いつまで經つても出來ないことになる。殊に今日のやうな複雜した社會では、自分一人が改善しやうと思つても何一つ改善することの出來ないのは見易い話。

◇

茲に特志の女流教育家を筆頭に、社會各方面の學者の後援を得て、生活改善同盟會なるものが生れた。生れたのは昨年のことだが、まだ大した成績も擧げ得ぬ點から見ると、過去の內輪揉めなどはサラリと水に流して、新しく生れたものとして取扱ふ方が同盟會の爲にも結構なことのやうに思へる。

◇

先づこの同盟會が決議らしいものを發表したのを見ると、將來は男子に限らず女子も洋服を着用すること。子供は男女とも洋服にすること。住宅は椅子式にすること。お客本位の家の建築を家族

本位にすること。まだこれまではよいが、それからいよ〳〵脱線して葬式や、停車場の見送り、宴會の改良、訪問接客の時間、結婚費の問題にまで及んでゐる。

◇

成る程これ等は生活改善の範圍内の問題には相違ないが、斯うまで事細かく相成つて來ると、半襟は洗濯の利く無地物を用うべし。肌襦袢は木綿物に限るべし。といふやうな末節にまで至らねば徹底を期し得ないやうに思はれる。何故にもつと生活改善を大綱にとゞめて、その精神の徹底を期することに力を濺がぬであらうか。

◇

住宅を椅子式にすることは、日本建築では可なり不都合が伴ふ實際問題である。成る程、客間や應接間乃至は書齋位を椅子式にすることは、之までとても行はれてゐるが、それから虚榮といふものを引去れば、どれだけの便利が殘るだらうか、その爲に半分立つて半分坐るやうな、西洋式とも付かず日本式とも付かぬ、半端な家庭生活が生じて來る。これは決して生活の改善ではなくて寧ろ改惡であると謂ひ度い。

◇

さりとて私は西洋式の住宅に反對するものではない。反對どころか、住宅は結局西洋式でなければならぬと主張する者である。また將來は必ず西洋式住宅に落付くの外ないことも確信してゐる。住宅の改良は凡ての生活の改善の根本である。先づ住宅を改善せずして、その内の一部に變更を加へるが如きは、古き革嚢に新しき酒を盛るの類で、到底成功するものではない。こゝに於てか私は住宅は凡て西洋式にすべしといふ一項を生活改善同盟の第一のモットーとして高く掲げんことを提唱する。

◇

住宅は一代も二代も續いてあるものだから、さう容易に改築することが出來るものでない。勿論經濟問題もある。そこで同盟會は先づ手近かな改良から追々に理想に向つて進まうといふ考らしい。言ひ換れば末節から根本に溯らうといふ手段であらう。しかしそれは難きを棄てゝ易きにつく人情の然らしむるところは言へ、苟も「生活改善」の大看板を出す者の採るべき途ではあるまい。

◇

同盟會が眞に住宅から生活改善の一歩を踏み出さうと思ふならば、今が絶好の機會である。住宅難の聲の高い昨今である。市内の好位置に數千坪を相して、これに五百七百の家族を樂々と收容し

得られる大アパートメントを建て、市民をして先づ西洋住宅の住心地を體驗せしめることである。さうなれば住宅難の緩和と同時に、女子の洋服說も實行の機運が來る。鐵も安い。セメントも安い。こんな時に大規模な住宅計畫から生活改善の一歩を踏み出す機運を作ることが出來る。同盟會の學者連には佐野博士を始めお歴々の建築家がゐる。一つ相談して見てはどうです。何に、金が無いつて？　金は天下の廻り持ちです。憚り乍ら貧乏な私たちでもこんな計畫なら大賛成です。

（一〇・五・二〇）

昭和貳年三月十五日印刷
昭和貳年三月廿五日發行

新聞職線
定價金壹圓參拾錢

著作者　東京市神田區今川小路一丁目四番地　成澤玲川
發行者　東京市牛込區早稲田鶴巻町三六二番地　福岡益雄
印刷者　東京市牛込區早稲田鶴巻町三六二番地　關根慶寛
印刷所　金星堂印刷所

發行所　東京市神田區今川小路一丁目　金星堂
電話九段二九六九番
振替東京三三二八番

趣味のシリーズ

1・モダン・ガール

價一圓三十錢　送料八錢

清澤　洌氏著

「モダーン・ガール」これを「近代の女性」と譯しては意味をなさない。モダーン・ガールはそれ自身として別種の內容と存在を持つてゐる。どうしてこんなものが產れたか、どんな人種か？　近代製業の產んだ職業婦人と、婦人の職業觀經濟觀を論じ、世界の女のモダーン振を紹介し、併せて明治天皇の婦人觀をも書いた面白いもの。

2・新聞戰線

價一圓三十錢　送料八錢

成澤玲川氏著

新聞界に於いて長い經驗と一家の卓見を有する現東京朝日新聞社計畫部長たる成瀨玲川氏の手になつたもので、各新聞記者が一つのニュースのために身命をも賭して闘ふ生きた事實を紹介したもの、殊に大正天皇御略例當時のことは國民に興味深いものがあらう。他に隨筆四五を添ふ。

3・世界の女性

近刊

古莊國雄氏著

現在生きてゐる人で世界的な女性十三人を捕へ來つて、その經歷、逸話、等を多くの寫眞入りで紹介したもの。ランラン嬢、人見孃の話はまだ人々に耳新しいだらうがこその他ルーマニア皇后マリイ陛下、ロシヤ廢朝の姫ナスタアシヤ、女大使コロンタイ夫人の他、第一の美人、探險家等を描く。

■社會思想史

價一圓五十錢　郵送料八錢

フオルレンダア著　高橋正男譯

ドイツの哲學界に於ける新カント派の重鎭にして、常に社會主義思想に嚴正なる哲學的批判を施しつゝある人がミユンステル大學で多くの學生のために講じたもので、開口一番、先づ東洋に於ける社會思想を云爲するなど、我々東洋人には最も親しみあるものといふことが出來る。譯筆又暢達。斯界に好評を博しつゝある

■獨逸文學史

價一圓五十錢　郵送料八錢

ロバアトソン著　麻生義譯

本書はドイツ文學の研究家として斯界に重きをなす英國ケンブリッチ大學の教授ロバアトソン氏が、同大學で講し義たものゝ大要であつて、遠くドイツ文學の起原から、中世、近世より現代に至るまでの變遷を說き、それに氏獨特の明快な解釋を施したもの。近時獨文學の隆盛に際し、是非一讀されたい書であると思ふ。

■ロシヤ文學史

價一圓七十錢　郵送料十錢

山內封介著

ロシヤが惱める國であることは今も昔と同じである。そしてこの惱みの中からこそ人々も既に知るが如き偉大なる多くの藝術が生れた。本書はその原始文學時代から說いて、現在勞農ロシヤに於ける革命的作家、革命の同伴者の文學にまで說き及ぼしてゐるもので、甚だ興味ある獨特のロシヤ文學研究書である。

社會文藝叢書

本叢書はプロレタリヤ文藝を主張した全世界的文献を集めることを趣志としたもので、革命運動、婦人解放運動、美術運動、勞働運動等、あらゆる社會運動を題材とした小説、戯曲、詩、評論、傳記等の一切を含め、順次刊行するものである。來るべき世界は正に本書の中に、胎してゐるであらう。

四六版フランス製・百八十頁・定價各册八十五錢・送料六錢

1 夜

（戯曲）

マルチネはトロツキイの友人であり、本書はトロツキイの賞讃おく能はざる五幕の大革命劇で、ロシヤに於ける上演には多大なセンセイションを捲起したと云はれる。

マルセル・マルチネ
佐々木孝丸譯

2 藝術の危機

（評論）

ドイツの美術界に無産派として英名を馳するグロスの美術評論集であつて、卷末にゲルツエン等の無産派劇場論を附し演劇美術の新しい動きを示したものである。

ゲオルケ・グロス
麻生義

3 解放されたドンキホーテ

ロシヤのプロ派作家中最高位にある人の手になつたもので、辛竦皮肉に現代を諷刺した喜劇である。日本でも譯者自身前衛座にて演出自演し大好評なりしものである。

ルナチヤルスキイ
千田是也辻恒彦共譯

社會文藝叢書

4 裝甲列車1469

（小説）

現ロシヤ文壇にて農民文學を唱導する第一人者としてのイワノフの最も著名な小説である。シベリヤにてバルチザンが横暴を逞うせる時の戰爭を描き、英、米、日支等各國の軍隊も入り混つての興味ある物語である。

イワノフ
黒田辰男譯

5 プリンス・ハアゲン

「調べた藝術」の作家として最近大いに我國に紹介されてゐる人の代表的な戯曲である。無産派劇場運動の先驅、前衛座が來る四月第二回公演に上演するその臺本である。近日刊行の筈。

シンクレヤア
佐野碩譯

6 誰が一番馬鹿か

（戯曲）

曾て人形座の手で人形芝居として築地小劇場に上演され、大好評を博したものの臺本である。三月中旬刊行の豫定。その日を待たれよ。

ウイツトフオゲル
辻恒彦譯

以下續々刊行

新進作家創作集

呪はしき生存　宮田重雄裝四六上製　定價二圓送料十二錢　佐々木味津三氏著

鷗（かもめ）　柳瀨正夢裝四六上製　定價二圓送料十二錢　金子洋文氏著

幸福　藤井達吉裝四六上製　定價二圓送料十二錢　宇野千代氏著

伊豆の踊子　吉田謙吉裝幀四六上製　價一圓五十錢送料八錢　川端康成氏著

生活の花　吉邨二郎裝幀四六上製　價一圓五十錢送料八錢　十一谷義三郎氏著

新進作家創作集

痩せた花嫁　吉邨二郎裝幀四六上製　價一圓五十錢送料八錢　今東光氏著

感情裝飾　吉田謙吉裝幀四六上製　價一圓二十錢送料八錢　川端康成氏著

氷る舞踏場　中川紀元裝幀四六上製　價一圓五十錢送料八錢　中河與一氏著

春の外套　芥川龍之介裝四六上製　定價二圓送料十二錢　佐佐木茂索氏著

第三半球物語　著者自裝四六判上製　定價一圓送料六錢　イナガキタルホ著

5
3

横光利一著作集

1 赤い色

長篇出世作日輪を初め、赤い色、碑文、蠅、の四篇、共に初期のものだが、氏の名を今日あらしめた名篇ばかりである。殊に日輪は本書を以て定本とする。

2 マルクスの審判

月夜、村の活動、穴、落された恩人、敵、芋と指環、マルクスの審判、父、の八篇を收む。中、月夜、父等は近き未來に書かるべき長篇の一部として興味多いものである。

3 男と女と男

本篇は「男と女と男」を初め、「食はされたもの」戯曲に於ける氏の處女作たる「淫月」等、氏の戯曲を收めたもので、又上演好評なりしものの三篇。

第四編目下組版中・以下續々刊行

恩池孝氏裝幀・四六版紙裝・各册價七十錢

525
322